

平成30年度 第2回総合教育会議 議事録

日時：平成30年12月14日（金）10：00～11：50

場所：佐世保市役所5階 庁議室

出席者：朝長佐世保市長、西本教育長、久田教育長職務代理者、深町教育委員、合田教育委員、内海教育委員

事務局：松尾総務部長、池田総務部次長兼総務課長、池田教育次長、陣内教育次長兼学校教育課長、友永総合教育センター長兼総合教育センター課長、小田副理事兼社会教育課長、松尾総務課長、山口文化財課長、吉富学校保健課長、鶴田スポーツ振興課長、谷口図書館長補佐、熊本総務課長補佐

【議事録】

【松尾総務課長】

それでは定刻となりましたので、ただいまから平成30年度第2回総合教育会議を開催いたします。

皆様におかれましては、大変お忙しい中ご出席を賜り、まことにありがとうございます。教育委員会総務課、松尾でございます。市長に議事進行を行っていただくまでの間、私の方で進行させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それではここで、会の主催者であります朝長市長よりご挨拶をいただきたいと思います。

【朝長市長】

皆さん、おはようございます。

本日はお忙しい中にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。また、日ごろから本市教育行政の発展に向け、日々ご尽力いただいておりますことに、まずもって感謝を申し上げます。どうもありがとうございます。

本日は平成30年度第2回総合教育会議ということで、私の考え方と教育委員会の皆様の考え方を調和させ、有効に活用する場として開催をさせていただきました。

さて、今年の夏は、ブロック塀等施設の老朽化対策や空調設備の整備といった学校を取り巻く環境に対し、大きな注目を集めた年でございました。そして、市

立学校の空調設備について、平成31年度末までの完了を目指し、整備を進めていくということで決断をしたところでございます。今後の事業の実施について、委員の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

特に、空調整備に関しましては、8月に、教育委員の皆様方から、ぜひ実施してほしいというお申し出をいただき、それを受けまして私も決断をしたところでございました。教育委員会としての立場をしっかりと鮮明にされたということで、私も決断することができました。感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

また、10月19日には、佐世保市名誉市民である下村脩博士がご逝去なさいました。博士のご功績は改めて申し上げるまでもございませんが、ノーベル化学賞を受賞され、世界中から注目されるようになってからも、幼少期から学生時代をお過ごしになられた佐世保のことを気にかけてくださいました。

特に、下村脩ジュニア科学賞SASEBOの創設を機に、慈愛に満ちたまなごしで子どもたちと優しく触れ合っていたいただいたお姿は心に残り、忘れることができません。改めて、博士に対し哀悼の意を表するとともに、博士の佐世保に対する思いを次の世代の子どもたちに引き継いでまいりたいと思っております。

本日は、「ふるさと学習に対する考え方について」と「学校訪問を通じて感じたこと」という二つのテーマで、教育長をはじめ、教育委員の皆様のお考えをご披露していただき、議論を進めていくことができればと、そのように思っています。

短い時間ではありますが、次の世代を担う子どもたちのため、また、今後の佐世保の教育のさらなる発展に向け、有意義な会議となりますよう、皆様の忌憚のないご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いをいたします。

また、今日は市議会から山下議員、久保議員に傍聴いただいております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、挨拶にかえさせていただきます。どうもありがとうございました。

【松尾総務課長】

ありがとうございました。

それでは、ここから議事に入らせていただきます。ここからは、主宰者であります朝長市長の進行でお願いいたします。

【朝長市長】

それでは、私の進行で会を進めたいと思います。

本日のテーマとしては、「ふるさと学習に対する考え方について」「学校訪問を通じて感じたこと」の2点を準備いたしております。

少子高齢化社会と呼ばれる中において、次の世代を担う子どもたちの育成、郷

土愛を育む取り組みはとても重要なことであり、私たちとしましても、本市の教育というものをしっかり考えていかなければならないところであります。

まず一つ目のテーマ「ふるさと学習に対する考え方について」でございます。こちらの内容の説明を教育委員会事務局からお願いをしたいと思います。

【陣内教育次長兼学校教育課長】

改めまして、おはようございます。それでは、本市におけるふるさと学習について、事務局からご報告をさせていただきたいと思っております。

本資料は1ページから3ページに用意しておりますが、本資料に入ります前に、その背景、必要性等についてご説明申し上げたいと思います。

ふるさと学習に関する重要性につきましては、本市のみならず、本県においても大きな課題となっておりますのでございます。

2005年度の本県の県民人口は150万人でありました。しかしながら、今後の推移を見ますと、早ければ2040年代には100万人を割り込むのではないかというデータが出されております。2040年代と申しますと、これから二十数年先でありまして、今の小学校、中学校の児童・生徒の皆さんがまさしく20代、30代で社会の中心になる時代でございます。この時代が大変人口減少の大きな課題を包含している状況でございます。

急激な人口減少の主な要因としましては、一つは自然減——亡くなられる方とお生まれになられる方々の足し算、引き算の問題でございますが——と、もう一つは社会減、すなわち若年層の県外転出という課題が一つございます。ここに關しまして、社会総ぐるみで対応していくことは当然必要なわけでございますが、学校教育における一つの手だてというものも大変重要ではないかというのが背景でございます。

すなわち、ふるさとの自然、歴史、文化、産業のすばらしさを子どもたちが知るといふこと。ふるさとの人々の営み、苦勞、工夫、努力、そういった尊さを学ぶといふこと。また、発達段階によりまして、人口減少や産業振興等の課題を捉え、その解決の方策を考えていくといふこと。このようなことが今、学校教育に求められていると認識しております。

そこで、本市の取り組みにつきまして、本資料に基づきましてご説明を申し上げます。

大きく三つの手だてが考えられます。

一つは、市内の全小中学校の児童・生徒の共通の学びとして位置づける体験的な活動。そして二つ目は、それぞれの学校や地域に応じた特色ある学びと位置づける体験活動。そして三つ目は、子たちの学習を支える教材の整備でございます。

まず、一つ目の市内の子どもたちに共通の学びとして位置づける体験活動でございますが、本資料の1ページをご参照ください。

一番上に、郷土愛を育む体験活動ということで、①ふるさと文化・環境・自然体験学習というもの、小学校4年生でございます。②ふるさと歴史発見学習、中学校1年生を対象としたもの。この二つを実践しているところでございます。

小学校4年生の活動につきましては、午前中に本市の教育施設の特色である少年科学館を活用した理科学習を展開し、午後は九十九島やクリーンセンター、三川内焼など、七つのコースから選択をするという体験学習でございます。

それから、②の中学校1年生は、市内各地に残されております歴史遺産、全14コースを準備しておりますが、この中からそれぞれの学校が選択をして、ふるさとの歴史を学ぶ学習でございます。

これが、本市の全ての子どもたちに共通して実践している体験活動でございます。

続きまして、それぞれの学校や地域の特色を生かした体験活動でございますが、これは本資料の2ページをごらんください。

それぞれの学校において、学校地域の特色を生かした創意工夫あふれる活動を展開することで、特色ある学校づくり、特色ある教育活動の実践を支援しているところでございます。

これにつきましては、共通実践ではないのですが、主に特色のある11校の概況をピックアップして載せております。

例えば、1番は宮小学校です。ふれあい教室、郷土料理などを使って地域人材を活用し、また、農業の盛んな地域でございますので、農協の皆さんの協力による米づくり。また、近隣に大学も位置されておりますので、その大学生との交流等を活用した取り組みを推進しております。

二つ目は、三川内小学校でございます。郷土の伝統産業である窯業、三川内焼の絵つけ体験等を実践する。このように、ふるさとの特色を生かして、ふるさとのすばらしさを学ぶ学習を展開しているところでございます。

それから、本資料の3ページでございます。

ここも、それぞれの地域、学校の特色を生かした取り組みの中ですが、特に教育課程を大きく変更した取り組みを1点、ご紹介いたします。

これは、宇久小学校、宇久中学校における取り組みでございます。平成18年、構造改革特区の構想が起こされたときに、この地域の教育課程を構造改革特区として認定をいただきました。従来ですと、総合的な学習の時間や特別活動といった領域があるわけですが、ここを再編し、「宇久・実践」という独自の領域をつくり、実践を進めてきたところでございます。

これにつきましては、構造改革特区の認定後は、文部科学省の教育課程の特例校ということで申請をし、その許可をいただいて今も進めています。

この中では、なぎなた踊りですとか、小中高校生まで一体となった地域のクリ

ーン作戦や、12年間を通して自分のキャリア教育——自分の夢が1年生のときどうだった、そのために何年生でどのような学びをした。中学校になったら、どのように気持ちが変わったとか、12年間追跡していけるようなノート等を作成しながら進めているところがございます。

それから最後です。子どもたちのふるさとについての学びを支援する学習教材でございますが、二つの冊子を用意させていただいております。

まず、ブルーの佐世保港の全景を表紙、裏表紙に使っております「わたしたちの佐世保市」でございます。これは小学校3年生に配布して、小学校の3、4、5、6の4年間活用する冊子でございます。

実は、1、2年生にないのかという話もいただいたことがあります。小学生の社会に対する学びの過程として、1、2年生で生活科の学習として、それぞれの学校、地域に特化した学びを行います。それから3年生になって、その学習の領域が佐世保市、また、4年生になると県と広がってまいります。

また、5、6年生になりますと、産業や歴史、公民といった分野に広がっていくわけですが、産業の中でも佐世保市、地元の産業をモチーフとして学んでいく。歴史についても、でき得る限り佐世保市の歴史を学習の中にトピックとして用いていく。公民につきましても、佐世保市でどのような形で公民館ができてきたのかとか、そういった地元の素材を使っていきますので、これを3年生から6年生まで使えるような教材をつくらせていただいております。

もう一冊、「わたしたちの佐世保」という資料がございます。これは中学校の社会科で使うものでございます。ご存じのとおり、中学校になりますと、地理的分野で、世界の各地域ですとか、日本におきましても九州地方や中国地方などといった、それぞれ大きな地域の特色を学びますが、時折、地元を振り返る。東北地方はこのような地域だという学びをしながら、佐世保市を振り返っていく。そこでそれぞれの地域のすばらしさが理解できるとともに、改めて本市の状況が再度確認できるというような学びに使うためのものがございます。

以上のような形で、大きく三つの柱をつくりながら実践を進めているところでございます。

以上、ふるさと学習に対します報告でございました。

【朝長市長】

ありがとうございました。それでは、教育委員の皆さんもそれぞれのお立場から思いや考えておられるものがあるのではないかと思いますので、委員の皆様のご意見をお聞かせいただきたいと思っております。

まず、久田教育長職務代理者からお願いします。

【久田教育長職務代理者】

おはようございます。いつも最初に発言指名がありますので、緊張していると

ころです。

私自身の古い話ですが、昔、小学校5、6年のころでしょうか。友達との遊びの中で、佐世保の自慢を言い合ったことがありました。西海橋がある、東洋一だぞとか、SSKのクレーンやドック、あるいは眼鏡岩や、針尾無線塔があると言いつつを言っていたのですが、よくよく考えてみると、私自身は西海橋にも行ったことがないし、眼鏡岩にも行ったことがないのに知ったふりをして話をしていました。

何で知っていたのかと思うのですが、情報誌もインターネットもない時代ですから、周りの大人たちの情報が子どもに伝わってきていたのだろう、中高生の会話を聞きかじって、それを言えるようになっていたのだろうと思います。

それでは、今の子どもたちが佐世保の自慢、あるいはふるさと自慢と置きかえても良いのですが、どの程度、子どもたちが聞かせてくれるのかなというのが、いつも気になっているところです。

私たち教育委員も、毎月開催される定例の教育委員会だけでなく、私たち自身の研修の場として、前期教育委員会が位置づけられており、机上のいろいろな研修だけでなく、実際に出かけて行って佐世保市の様子を知るために、図書館や地区公民館、体育施設なども視察に伺います。

私が特に印象に残っているのは、社会教育課、現在は文化財課となっておりますが、所属されている学芸員の方に同行していただき、福井洞窟の作業中の地下にも潜りましたし、世知原や吉井町の石橋群、それに針尾無線塔、三川内焼の窯元、佐世保市民文化ホールの前と後、山の田水源地、それから無窮洞、佐世保地方総監部の地下壕の中にも入りました。学芸員が説明する内容がわかりやすいこと、説明の深さや広さについて、すばらしいと思いました。

例えば吉井世知原の石橋群について実際に上流から見てきましたが、世知原には17、吉井には7つあるということでした。

何でこんなに石橋ができたのだろうかと思ったときに、吉井世知原の佐々川の上流は際立って崖が高いので、橋を渡さないといけない。そして、昔は木でできた橋や土でできた簡単な橋でしたが、少し雨が降ると激流が走り、身の危険がある、すぐ壊れやすいため、地域の方々が石橋を求めたのだそうです。そこにすばらしい石工が存在し、また、石材がたくさんあり、それにより石橋がつくられさらに、炭鉱等も活発になったということを学芸員の説明を聞いて初めて知りました。

針尾無線塔にしてもしかりです。これまでは国道202号線から見るだけだったのですが、学芸員と一緒に見学させていただいたときに、近くに行ってみるとわからない驚きや感激がありました。

私はその後、門衛所が開設したときにも見学に行きましたし、私の住んでいる

町内会でも見学に行きました。その際、女性のボランティアガイドの方の元気あるすばらしい説明に圧倒されました。

感受性豊かな子どもたちに、そういうものを参観させるということは非常に大切なことだと思います。幸い、事務局から説明がありましたように、ふるさと歴史発見学習会や、ふるさと文化環境支援体験により、授業として推進をいただいていますから、佐世保市の取り組みというのは大変すばらしいことなのかなと思っています。

そこで私自身、ふるさと学習って一体何だろうかと思ったときに、そういう地域の学習を通して、子どもたちの中に地域の関心が高まり、ひいては郷土愛が育まれていく。もっと言いますと、佐世保市に生まれたことをうれしく、誇らしくなる。そして、いずれ成長してどこに住んでいても、ふるさと佐世保のことに思いをはせる。今は佐世保を離れているけれども、いずれは佐世保に帰りたいたいという、そういう土壌を小さいときに育てておくということが一番大切なのではないかと、学習の大きな狙いだらうと思います。

文化財に限らず、子どもたちの周りには地域の学習素材がいっぱいありますから、例えば「うちのところはミカンづくりが盛んだよ」、あるいは「お茶、メロンやイチゴづくりが盛んなのよ」というまず身近なところを感じ取らせることをぜひ実践してほしいと思います。

そういうところにまた特色ある学校づくりの推進事業というのも加味されていけば、一本筋の通った取組になるとと思います。

ご発言なされたい委員の方々がいらっしゃいますので、ここでストップはしますが、ほかにも言いたいことがありますので、もう一回発言の機会をいただければ幸いです。

【朝長市長】

久田教育長職務代理者からお話をいただきました。まだお話し足りないということでございますけれども、時間の都合もございますので、一応、1回目ということにしたいと思います。

それでは、地域代表の視点ということで、深町委員。

【深町教育委員】

私の子どもが小学校3年生の時、ふるさと学習の授業で「九十九島体験」をさせていただきました。

九十九島体験学習から帰ってきた娘は、「お母さん、船に乗ってきたよ！九十九島を見てきたよ！」と笑顔いっぱいとても嬉しそうに話をしてくれました。「そう、それは良かったね！」と答えたと同時にハッとしました。他県からの来客の際には九十九島の素晴らしさを知ってもらいたいと、弓張岳の展望台に連れて行き、海王にも乗船させていましたが、我が子は乗船させたことが無かった

からです。あまりにも身近すぎて九十九島を体験させることを考えてもいなかったからです。

親としてできていなかったことを学校の授業で体験させていただいた事がありがたく、感謝の気持ちでいっぱいでした。九十九島の素晴らしさをこれからも佐世保の子どもには体験させてあげたいと思います。

個人的意見ですが、日本三景の一つ、宮城県の松島は確かに素晴らしかったですが、九十九島はもっと素晴らしい！と確信しました。また、秋田県のかほ市に「陸の九十九島」と言われる場所があることを先日、初めて知りましたが、インターネットで検索したら、佐世保の九十九島が1ページ目、2ページ目と出てきて、にかほ市の九十九島は後の方に出てきました。やはり、佐世保の九十九島が有名なのだということを実感しました。

【朝長市長】

ありがとうございました。その陸の九十九島というのは、盆地があって、そこに点在しているのでしょうか。

【深町教育委員】

そうです。そして天然記念物になっています。

ただ、通っただけでは、森が幾つかあるようにしか見えなく、空から見ないと全体像がわかりません。ホームページには空から撮影された風景が載っていました。九十九を九十九里浜（くじゅうくりはま）とか九十九島（つくもじま）など、さまざまな言い方がありますが、同じ九十九島というのがあるというのは、ほんとうに初耳でした。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それでは、保護者の視点から、合田委員、お願いします。

【合田教育委員】

よく話題になりますが、出身地を問われた際、佐世保市民は佐世保出身と言う方が多いと思います。私は高校卒業して大阪の学校で学びましたが、出身地を尋ねられた際、県名ではなく、佐世保出身と回答していました。しかし、皆さんからは理解していただいていたと思います。佐世保は全国でも通じる。それがとてもうれしくて、九州のイントネーションで都会に出たときに、佐世保を知ってくれているということが、都会での生活を後押ししてくれたような気がしています。その根底には、私自身も佐世保の小中学校でふるさと教育を受けてきたからだと思っています。

配付されました「わたしたちの佐世保市」、この1ページに、佐世保の市章が載っていますが、小学校1年生の担任の先生が、カタカナの授業が始まる時に、黒板に「ほら、サ、セ、ホ、これで佐世保市の市章なんだよ」と書いて教えてく

ださったのを46年たっても鮮明に覚えています。そういったことがあって、大阪という都会で学んで、そのままそこに残ろうとも思いましたが、「やっぱり佐世保に帰ろう、両親のところに帰ろう」と思わせてくれたのは、この小学校1年生のときの担任の先生だなど、懐かしく思い出しました。

現在、私自身が子育てを行っている地域では、たくさんの商店街が存在しておりますが、特色ある学校づくりとして、子どもたちが小学6年生のときに、高いショップを体験できました。ほんとうにありがたいふるさと教育だったなと思います。

小学1年生のときから町探検で、子どもたちは、自分の住む町はどんなところなのかということ、一つ一つお店を訪ねてインタビューをし、商店街を抱えている地域に住んでいるという認識を持っていました。そこから、たくさんの勉強をして、ここの商店街ではどういうものが売れるのかという、今度は産業面の学習に入り、そして、6年生になって、自分たちで仮店舗の中で商売をする。先日、今年度の「高いショップ」が開催されましたが、子どもたち自身で仕入れ、交渉をし、ポスターをつくり、周知していました。そして、たくさんのお客様に来ていただきました。いらっしゃった方は、子ども相手ですから値切ることもなく、「よく頑張ったね、頑張りなさいね」と声かけてくださっていました。親以外の佐世保市民の方から声をかけていただくことは、愛着形成の一助にもなっていると思いますし、何よりも郷土愛と、そしてキャリア教育につながったこともほんとうにありがたかったと思っております。

先ほど、下村博士のことを朝長市長がおっしゃいましたが、今度の日曜日に下村脩ジュニア科学賞の表彰式でございます。賞、コンクール自体は毎年、小中学校から告知が来ますので承知しておりましたが、児童・生徒の皆さんも、故郷にこんなに偉大な研究者がいるということ、小学校や中学校の中で、話題になっていたと思います。その中で、「僕も研究者になりたい。同じ郷土の佐世保にこんなにすばらしい研究者がいたから、僕も頑張って勉強して研究者になりたい。下村博士と同じ幼稚園で過ごした僕だから頑張りたい」と、いうことを、私の息子が大学の志望書に書いておりました。親が教えられないことを小学校と中学校で、ふるさと教育とともにキャリア教育、夢を与えるような教育をしてくださったということ、ほんとうに感謝しております。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それでは、経営者の視点で、内海教育委員、お願いします。

【内海教育委員】

おはようございます。きのうの夜から今日の朝まで、今日のこの場所をずっと考えたら、「We love Sasebo」という言葉が浮かびました。なぜそういうことが

思い浮かんだのかということ、まず、教育委員にもし私になってなかったら、佐世保市には、すばらしい資産や、文化財がたくさんあるということ、知らないまま終わったのだらうなと思いました。

先ほど、久田教育長職務代理者がおっしゃったように、宮の無窮洞、針尾の無線塔について、存在は知っていましたが、詳しく説明を受けて、私は、知らないことが多いことを再認識しました。私が知らないということは、実は、私の子どもも知らなかった。

先ほどの説明にもありましたとおり、小学4年生になると、ふるさとの学習をすると思いますけれども、私は親が、できれば祖父・祖母の世代まで含めて知るべきだと思います。三世代。Weですよ。

それでは、どうやってこの種を蒔いたら良いのか。教育委員会が主催してやる一日の時間というのはほんのわずかだと思いますが、この冊子を見たときに、これは相当な時間と費用をかけて作成されているのだらうと思います。これはこれで大事だけど、例えば、「佐世保ふるさと再発見」というDVDを作成する。たくさん作成すると安くなると思いますので、これを子どもたちに配付する。そして、家族で見てください。佐世保の良さがスポットで見ることができますので、家族で、ふるさとを見学する動機付けとなるとと思います。そして、家族のコミュニケーションや、佐世保に対する情熱など、そういう思いがさらに深まっていくのではないかと思います。

私は海外にばかり行っておりました。アメリカのロサンゼルスを知っている私が無窮洞を知らなかったわけです。そういう意味で、小さいときに佐世保のよさを味わって、感じて、学んで、そういう子どもがまた佐世保に戻ってくる。そして、佐世保のよさを発信してくれる。間違いなく、今も良いですが、今以上にすばらしい佐世保市が誕生するのではないのでしょうか。

費用はかかることかもしれませんが、作成したDVDを一般販売することにより、佐世保市の歳入としてプラスになるのではないかとということも考えながら、まず気づいて、感じて学ぶ。深く学ぶ、広く学ぶ。そういう場をさらに提供できればいいなと思いました。

【朝長市長】

どうもありがとうございました。

それでは再度、久田教育長職務代理者をお願いしたいと思います。

【久田教育長職務代理者】

私が申し上げたいことは、大体、内海委員と共通していましたが、そんなにお金のかからないことで、資料の1ページです。目次の次ですね。上に、「私たちの住む佐世保市には西海国立公園があって、すばらしい港を持った市として多くの人々が」、中略して、写真の下に、「パールクイーンに乗って九十九島巡りを

したり、海に沈む夕日を眺めたりして、九十九島のすばらしさをおうちの人と体験しましょう」と書いてあります。

親を引きずり込むというのは内海委員のおっしゃったことと一緒にですが、あわせて、例えば、今後これが改訂される折に、「世界で最も美しい湾クラブ」に認定されたことや、黒島は世界文化遺産になったこと、ほかにもこういうところがありますという資料をつけるだけで、大きなインパクトがあると思います。

だから、資料を見直すと、黒島の教会は入れないといけないとか、3、4年生で勉強するときに、学校が「これ、今日勉強したことをおうちの人にお話して、きちんと伝えられるかどうか言ってね」というところが非常に大切なんじゃないかなと思います。

ここに、「佐世保市の文化財を探る。」というすばらしい冊子があります。市内の文化財全部を網羅してありますし、一方、「近代佐世保130年の軌跡」というすばらしい写真集もあります。写真だけでなく、最後のページに資料として載せるということあたりまで、これは社会科の先生方がつくっていらっしゃるのでしょうけど、もう少し、行政からも口出しして作成してほしいと思います。

畳みかけるようで申しわけありませんが、やはり、文化財課の学芸員の方や、出前講座の活用というのをもっと積極的にしていただくことも、深みのあるふるさと学習になるのかなと感じたので、2回目の発言をいたしました。ありがとうございました。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それでは、それぞれ委員の皆さんから貴重なご意見いただきましたが、教育長も今の話を聞かれながら、また、ご自身の考えもあるでしょうからお願いいたします。

【西本教育長】

ふるさと教育を今までもずっとやってきましたが、今、特に取り上げられているのは、事務局からの説明もありましたとおり、人口減少の一つと、地域創生という観点から、今まで以上にクローズアップされているのかなと思います。

と申しますのは、先日、長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産が世界遺産に登録されたということで、記念式典を開催しました。その際、黒島小中学校の児童・生徒たちがオリジナルの歌を歌ってくれました。

彼らにしてみれば、ほんとうに、世界遺産に登録されたという喜びもさることながら、黒島の生活というか、生まれた島の誇りといったものが込められた歌だったと思います。そういうことを考えますと、もっと島の人口を増やしていきたいという反面、この子どもたちが高校生になるとときには島を出ていってしまう。そして、大学生になると、なかなか島に産業がないと戻ってこれないというこ

とが現実としてわかっているところだと思います。

そうして外に出たときに、自分たちが生まれ育った黒島に対する愛着をどれぐらい持っているかというのが、運動会などといった機会に多くの方が黒島に戻ってきて、ものすごくにぎわうというのがあります。それは、地域の人たちに愛されている、守られているという気持ちが出てくるのではないかと思います。ですから、出ていくのを必死でとめるといった施策も大事だと思いますが、出ていった人に、いつまでも佐世保のことを思っていたくという施策も大事だと思っております。教育施策としてどう取り組んでいくかというのは、今までやってきたことをもっと高みに上げてやっていかなければならないかなと思っております。

今、それぞれの委員の皆さんから、佐世保のよさについてもっと教えていくべきだ、我々も知らなかった、親もほんとうに勉強するべきだとおっしゃられたと思います。まさしく、そのとおりだと思っております。やはり、刷り込みをしっかりとやって、出ていった方々は佐世保のことを常に頭のどこかに置いていただくと、何かの部分で佐世保につながって、手伝いをしていただけるのではないかと思います。そういった意味では、このふるさと教育をしっかりと続けていかなければならないし、行政からのご支援をいただきながら、教育委員会としても頑張っていきたいと、何ができるのかしっかりと考えていきたいと思っております。

それから、名所、旧跡、産業といったものも大事ですが、地域の方々と家庭とが今まで以上によく密接につながっているという感じがいたします。ですから、地域に愛されているといった気持ちもしっかり持って、その地域がどういったところなのか、自分たちが住んでいるところはどいったところなのか。小さい部分でもいいですから、そういったところもしっかりと根づくような教育を進めていきたいと思っております。

今、市役所全体がそういう動き、美しい湾クラブも含めて、誇りに思うような事業がたくさんありますので、そういったものを学校教育の中に取り入れていって、そういった俯瞰的な見方ができるような子どもたちをつくり上げていく教育施策に取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

【朝長市長】

ありがとうございます。それぞれにご意見をいただきまして、ありがとうございます。皆さんそれぞれの立場から、それぞれの視点から、ご意見を開陳していただきましてありがとうございます。

今、私もお話を聞いていまして、基本的にはもう皆さん方と全く同じ考え方で、全てを網羅していただいたなという感じがいたしております。その中で感じた

のは、親が、これだけいろんなものがあるのですが、やはり親が知らないということもあるのかなという感じがいたします。

あるところでお話を伺いましたが、65歳から80歳までの人が今の日本を悪くしているのだと、私もその部類に入るわけですけど。というのは、60から80歳ぐらいの年代というのは、まだ発展途上というか、成長段階の日本であったので、生きるために必死だというような、そういう時代の生き方だったと思います。余裕がなかったので、子どもたちにそれだけのものを教育してなかった。すばらしい九十九島があるのに連れていけなかったとか、そんなこともあるかと思うし、自分たちが見て回るときに一緒に見て回ってないというか、親自体がそれだけの材料、教材を持ってないと。だから子どもに教えられないということですね。そうすると、自分の子どもたちが今40歳から50歳。そういう親世代に入っていると思います。その親世代が、それを自分たちが受けてないから、今度は孫世代に教えられないということになってきているということもあろうかと思います。ですから、その辺で、今の親御さんたちに材料を提供していくことは非常に大事じゃないかなと思います。

そういう意味で、内海委員がおっしゃいましたように、「ふるさと大発見」という佐世保のいろいろなものを網羅したものを、親御さんたちにまず見てもらえばいいのではないかなと。今、テレビでいろいろなことをやっていますが、断片的だからまとまって見てない。そうすると、親御さんたちも中途半端な知識しかないということになります。冊子を渡せばいいじゃないかと言うけれども、多分、冊子では見る人は見るのかもしれませんが、見ない人が多いのではないかなという感じがします。それで、映像でもって見せるような形ができれば、それが親御さんの一つの知識になるし、そしてまた一緒に見て、今度ここに行ってみようねということにつながってくるという感じを持ちました。

そして、ふるさと教育は学校でもやらなきゃいけないけど、地域や家庭でもやらなきゃいけないし、それを、小学校、中学校、さらには高校と継続的に植えておく必要があると思います。一度は大学や就職等で外に出ると思いますが、その後にもふるさとに対する思いというものを持ち続けるには、その多感なときに植えてもらっておかないと、なかなかふるさとに対する思いを持つようにはならないのだらうと思います。

そうすると、中には、帰ってきてふるさとのために仕事したいとか、尽くそうということになるだらうし、また、自分は別の仕事をしたい、ふるさとじゃなくて仕事をしたいという人も当然出てくるわけですけど、そういう人たちも頭のどこかに常にふるさとを考えながら仕事をする。そして、何かのときにはまた佐世保に戻ろうとか、あるいは将来、ふるさと納税をしようかといった気持ちにもなるかもしれないし、ふるさとに対して貢献できるようなことにもつながって

くるのではないかと思います。やはりふるさとをしっかりと教え込んでおくということが、小学校、中学校、高校の段階で必要じゃないかなと思いますね。

そして、羽ばたかせる。そして、また、帰ってくる人は帰ってくる。そういう形をつくり上げていくことが大事だと思いますので、ぜひ、今日、それぞれの委員の皆さん方がおっしゃったことについて、できることはやりましょう。そして、子どもたちと親御さんたちにもしっかりとそういう情報を提供するというのと、それから、親御さんに教材を。親御さんたちが材料を持たないと、子どもたちにも話ができないからね。そういう親御さんたちに材料を与える、教材を与える、話す材料を与えるということが必要じゃないかなということを感じました。

ほかに、今の件に対してご意見ございませんでしょうか。

【全委員】

ありません。

【朝長市長】

ないようでしたら、次のテーマに移りたいと思います。

次は、学校訪問を通じて感じたことをございます、二つ目のテーマでございます。

教育委員会事務局から内容の説明をお願いいたします。

【陣内教育次長兼学校教育課長】

学校教育課長です。

私も今回のテーマをいただきまして、文科省のホームページで、教育委員会というものを確認いたしました。文科省の資料には、このように書いてありました。

教育委員会は、学校教育、社会教育、文化、スポーツに関する事務を担当する独立した行政委員会であり、月に一、二回の定例会のほか、臨時会や非公式の協議会を開催する機関であるというご紹介でございました。このような中で、本市の教育委員会の教育委員の皆様には、月2回の定例会に加えて、学校教育をはじめ、さまざまな部分で、実態把握のための活動にご尽力いただいております。今日はその中身につきまして報告もさせていただきたいと思っております。

本資料は4ページでございます。

そもそも学校訪問の目的でございますが、教育課程への管理・運営をはじめとする学校経営上の課題、それから、本市施策の進捗状況等について、直接学校を訪問し、校長の学校経営の状況を聞き取り、また、授業を実際に目にしながら実態を把握し、指導をするという部分が一番中心でございます。

ほとんどの市町におかれましては、教育委員会の事務局がこのような学校訪問を実施されておりますが、教育委員の参加については、年に一、二校程度回られるというのがほとんどではないかと思っております。しかし、本市におきましては、市内小中学校、及び義務教育学校全70校中、34校に教育委員の皆様

実際に足をお運びいただきました。ここが、本市教育委員の皆様のご活動について、一番の特色になるところではないかと思えます。

訪問の種類でございますが、4ページの2番をごらんください。

学校訪問Aとしましては、教育長及び教育委員の皆様が実際に訪問していただき、全ての職員の授業を視察していただき、学校給食の試食も実施していただく日程でございます。これにつきましては、本年度は14校に延べ46名の教育委員様にご出席いただいているところでございます。

それから、学校訪問Bとしましては、教育長及び希望する教育委員様が訪問していただき、指導略案に基づいた全職員の授業を視察するというものでございます。これは給食試食までは至らずに、午前中の半日日程で実施をいたしております。これにつきましては、本年度20校に延べ39名の委員様がお見えくださいました。

最後に、学校訪問Cとしましては、教育長や教育委員の皆様のお出席はなく、事務局だけで訪問し、全職員の授業を視察しながら指導する日程でございます。これが半数に当たります36校というのが今年度の現状でございます。

3番として、学校訪問の主な内容についてですが、学校経営に関する説明及び質疑、実際の授業視察及び教育環境の視察。それから、事務局職員による経験3年未満の教諭、また、臨時的任用の講師に対する直接指導。また、本年度からは、一部の学校において、職や経験年齢にかかわらず全教員を対象とした個別指導を実施するように改善をしておるところでございます。

4番でございますが、主たる視点、指導事項として、特に今年度重点的にご留意、ご指導いただいた部分は、一徳運動の取り組み状況、特色ある学校づくり、図書館教育の充実（学校司書の活用）等についてでございます。

それから、学力向上施策、少人数指導の実際、心の状況調査（i - c h e c k）の結果の分析・対応、児童生徒理解支援システム、食物アレルギー、そして最後は、不祥事根絶といったところでございます。

総論といたしまして、事務局の感想も含めてということになりますが、専門的な領域になりますので、私たち事務局も、学校の教員、本来教員として、そういった目で見がちでございます。そうすると、どうしても殻が破れない。当たり前とつい思い込んでしまって、そこまではできないと、ついブレーキをかけてしまっているところを、教育委員の皆様が広く、多角的、長く、深い視点から見ていただき、私たちが気づきもしなかった、思いもよらなかったところを総合的にご指導いただく機会がこの1年間、大変たくさんございました。そういった意味でも、レイマンコントロールと言いますか、教育委員会制度の本来の趣旨を具現化するためには、ほんとうにすばらしい訪問をしていただいているというのが感想でございます。月に1回だったものが年間に何十回ということで、ほんとう

にご負担をおかけしているのですが、それだけの成果はいただいているということが感想でございます。

以上、報告でございました。

【朝長市長】

ありがとうございました。

今、話がございましたように、教育委員の皆様は、年間を通じまして市内学校訪問していただいておりますが、これまでこれだけ多くの数を訪問されているということを知りまして、びっくりしたわけでございますけど。実際に、それぞれ委員の皆様方は、感想もお持ちじゃないかなと思っております。お話を聞かせていただきたいと思いますと思っております。順番につきましては、今と同じような順番で。

久田教育長職務代理者は多分待ち構えてらっしゃったのではないかと思います。よろしくをお願いします。

【久田教育長職務代理者】

学校訪問のことについては、これまでの総合教育会議の中でも、機会あるごとに発言をしてきましたので、改めてとなると、何から話そうかなという思いがありますが、今日は少し絞って、教育委員が学校訪問することの意義、狙いというものについて、私自身の受けとめを話してみたいと思います。

実は、平成の初めのころの学校訪問と言いますと、佐世保市がまだ合併していませんでしたので、事務局職員だけの訪問が主でございました。しかし、平成10年ぐらいからでしたでしょうか。関心のある教育委員の方や、お仕事をやめられた教育委員の方が、「学校訪問に行ってみたいので、連れて行ってほしい」という申し出をいただき、「どうぞ、ご一緒しましょう」ということで、教育委員も一緒にお出でになるようになったのが、佐世保市の学校訪問の始まりになるのかなと思います。

そして、今度は平成の大合併により、学校数がさらに増えたことに対応し、今のような学校訪問A、学校訪問B、学校訪問Cというシステムができあがったものと認識しています。

私自身、ほかに仕事を持ちませんので、可能な限り、Aはもちろんのこと、Bの学校訪問もほとんど参加するようにしていますが、他の教育委員の皆様方のスケジュール調整というのは大変だろうなと思います。

教育委員の学校訪問する意義を結論から申し上げますと、私は2点あるのではないかと考えています。

1点目ですが、学校、あるいは校長と置きかえてもいいのかもしれませんが、学校に刺激を与えて活性化をさせる。これが1点目です。

2点目は、逆に、学校訪問することで、私たち教育委員が研修をする。私は教員の経験を有しておりますので、学校の状況はある程度見えていますが、学校関

係以外の立場から就任された教育委員の方にとっては、今の基本的な学校の考え方や、地域の連携の必要性が見えてくることだと思います。他にも、学級の中で落ち着いた行動を取ることができない子どもには、特別支援の職員がついていることなど、さまざまなことが、学校訪問を続ける中で理解いただけると思います。

合田委員や深町委員は、学校訪問をなさると必ず学校図書室を見学なさいます。学校司書が在籍しているときには、学校図書室の運営状況に関する会話をなさっています。

このように、学校訪問を繰り返すうちに、最初の学校経営説明で校長先生に質問すること、最後に私どもが感想を述べる内容について、それぞれの委員の担当する分野をお互いに理解した上で、全方位的に話ができている状況にあり、非常に良い状況だと思います。

質問の内容や、最後に行う指摘事項における私自身の担当領域で申し上げますと、校長自身のやる気であるとか、経営の方針、そういう部分が多いです。

学力に関して言えば、少人数指導がほんとうに機能しているのかどうか。やっぱり効果的に授業をやってほしいという観点からお尋ねをし、また、授業を見ています。

その他にも、中一ギャップを生まないための小中の連携が機能しているのかという点に関心を持っています。小学校・中学校が連携した行事の実施や、授業そのものや教職員の交流、考え方の連携というものがとれているのかどうかというのを尋ねます。

学校訪問は、例えばA訪問を受けるのは年に1回なので、学校側は、ふだんと違うよそ行きをしている構えがあるんじゃないかとよく耳にすることがありますが、よそ行きをする構えをつくるだけでも学校訪問の意義がそこにはあると思いますし、ふだんやってなくて、その時だけのよそ行きをした学校経営だったら、ふだんの様子は隠せませんから、すぐに見て取れます。だから、教育委員として、あるいは教育委員会として学校訪問することはとっても大切なんじゃないかと思います。

そして、地域の女性の立場として、また、医療関係者として、あるいは会社を経営されている立場としての学校経営のビジョンのあり方や評価など、他の委員の方々の視点を目の当たりにすることで、自身の教育委員としての研修につながっております。

2点申しあげました。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それでは深町委員、お願いします。

【深町教育委員】

学校訪問は私が教育委員をさせていただいている事の責務を、自覚する場だと位置付けています。

この7年間でA訪問84校 B訪問28校 今年度から始まったSA訪問2校 計114校訪問させていただきました。

これまで保護者として我が子が通った小中学校しか知らない私でしたが、教育委員として訪問させていただくことにより他校を知る事ができました。

よく「面接は3秒で決まる！」といわれますが、学校訪問時には、最初の職員室での職員紹介で不思議とその学校の状況をうかがい知ることができると感じました。また、徳育推進に関わった者として、その学校の一徳運動についても気になります。

久田教育長職務代理者が常々、「校長が変われば学校が変わる…」とおっしゃいますが、ここ1、2年で特に感じた事は「地域が変われば学校も変わる」「地域環境が学校に大きな影響を与える」と言うことです。

学校の周辺に新興住宅地ができ、そこから児童生徒が通ってくるようになると、それが刺激となって学校全体が良い方向に向かっていく…と言うことです。そうした地域環境の変化で、今まで抱いていた印象とは全く違う学校へと変化していることを知ることができるのも学校訪問です。

また先日、テレビの番組で‘AI’人口知能を使って「人間にとって健康寿命に一番影響を及ぼす事は何か?!」を探っていました。

御覧になられた方もいらっしゃると思います。結果は「読書」でした。それも幼少期からの読書量が多いほど、大人になっても読書を続けている人ほど健康寿命が長いとのことでした。

先日、受講したある講演にて、講師の方は、「教養を身につけることが大切です。どうしたら教養が身につくか？それは読書・本を読むことです。本は目の前に紙と活字だけしかなく、そこから言葉を理解し、考え想像しなければなりません。それが脳を働かせるのです」とおっしゃっていました。AIに導き出された健康寿命と共通しているなあ…と感じました。

我が子が通っていた頃25～20年前からすると今の小中学校図書室は様変わりしています。本を読もう！本を借りよう！という雰囲気になっており、実際の学校も図書の貸し出し冊数は増加しています。図書ボランティアの方々による読み聞かせ活動や図書室の掲示装飾の努力はもちろんですが、学校司書の配置が大きく影響していると感じます。将来を担う子どもの健康寿命を延ばすためにも、学校司書の充実を引き続きお願いしたいと思います。

【朝長市長】

ありがとうございました。

合田委員、お願いします。

【合田教育委員】

本は私も大好きで、常に必ず、絶対持ち歩きます。隙間時間にも見るぐらいですから、子どもたちにもそういう環境であってほしいと思っています。しかし、全ての家庭に本があるわけではありません。そのようななか、全ての子どもが本と出会えるところが、小学校・中学校なのだという思いを抱き、ずっとボランティア活動をしてきましたが、学校司書の配置でほんとうに変わりましたね。ありがたいと思っています。

私は仕事を持っていて、学校訪問Aも全て訪問できていない状況でありますので、久田教育長職務代理者と深町委員には頭が下がる思いでございます。

私が学校訪問に行くことで一番感じることは、この教育委員会で決まったことが果たして現場でどのように活用されているのか。ちゃんと機能しているのか、それが気になりますので、そういう視点で見えております。

その流れの中で、学校図書室、学校司書の活用に関すること、あと、私は医療従事者ですので、給食、特にアレルギー対策について確認をさせていただいています。

先日も他市の教育委員の方とお話しする機会がありましたが、佐世保市の給食センターの施設見学をなされ、徹底したアレルギー管理体制について称賛していただきました。佐世保市は全国的でも先駆的に、食物アレルギーの完璧なマニュアルもございます。それが果たして現場でどのように生かされているのか、それをいつも見させていただいております。まずは、安心して、安全な学校に通わせることが保護者としての一番の願いですので、全職員の方で子どもたちの命を守ろうとくださっている姿勢に、親としてほんとうにありがたいと感謝しております。

冒頭に、空調設備のことをおっしゃっていただきましたが、前回の総合教育会議のときに、私は夏は温度計を持って学校訪問していると申し上げました。このように財政厳しい中で、朝長市長がいち早くご英断いただきましたこと、保護者としても大変感謝しております。ありがとうございます。

そんなハード面の環境の中でいつも気になるのが、特別な支援を要する子どもに関する教育です。先日、少年院に携わる方々から講師のお招きをいただきまして、親としての立場でお話をさせていただきました。その後の意見交換の中でも、何で特別支援の子どもたちがこんなに増えているのかな、何で社会が優しくないのかな、そういう話になりました。

WHOでは、医療、介護福祉、教育のそれぞれの世界でも、今までの医学モデルから社会モデルに変わらないと、人は生きていけないと提唱されています。すなわち、障がいを持った子どもたちを強制的に変えるのではなくて、その子たち

があるがまま、ノーマルに生きていくためには、私たち周りの社会が変わらなければいけない。

佐世保市は今特別支援の学級が145ほどあるようでございます。また、幼児まどか教室が立ち上がりました。小学校の通級情緒指導、まどか教室に通う子どもたちが今、市内に200名。幼児まどか教室には12月1日現在で35名いるそうです。そう考えましたときに、幼児まどか教室は1学年平均21～22人ですよね。幼児で35人既にいる。この幼児まどか教室をつくったことで、救われる子どもたちと親御さんがどれだけいるかなということを改めてありがたく感じています。

ですから、この総合教育会議で協議し、決まったことがこうして実際に現場で浸透していて、それがちゃんと子どもや保護者に還元できていることを再確認できる学校訪問は私も毎回楽しみにしておりますが、できるだけ来年度もうちょっと行けるように、勤務調整しながら取り組んでまいりたいと思います。

また、先日、特別支援を要する子どもたちの保護者会にもお招きいただいて、先生方とも交流させていただきました。この子たちをきちんと納税できる子どもたちに育てられるようにしたいという話が出ておりました。ですから、そこにも支援の手が行くような、未来の納税者を育てるという意味でも、私たちが社会モデルの第一人者となって支えてまいりたいなと思っている次第です。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それでは、内海委員、お願いします。

【内海教育委員】

陣内次長の説明を聞いて、学校訪問の頻度について、佐世保が多いことに驚きました。今までは、他の自治体も同じような対応をしていると思っていました。

市内の小学校・中学校を数多く訪問しましたが、施設が新しい、古いというのは別にして、学校経営が大きな差があることをすごく感じました。

久田教育長職務代理者がおっしゃったように、校長先生のマネジメント、経営力、これによって学校が変わっていく。本来、校長先生が交代されても、引継がきちんとされたら、そんなに変わらないはず、と疑問に思っていました。管理職の方の力というのが大きく影響するということを実感しました。

私は、学校訪問した際には、まず、施設・環境を見ます。トイレがきれいな学校は間違いなく良い学校だと思っています。

学校訪問に行ったときには、事前に、かなり入念に準備されているのかもしれませんが、年に1、2回であっても、とにかく全員できれいにするという習慣をつけるのはとっても大切だと思っています。

しかし、子どもに掃除をするよう指導する前に、学校の先生方がどこまで環境

整備や環境美化、掃除道具などにこだわっておられるのかなと考えます。道具にこだわるということは、とても大切なことだと思っていて、いつも学校訪問を総括したときに、道具の保管のあり方などをアドバイスさせていただきます。

それは企業も同じだと思っています。会社をいろいろ訪問してみて、その企業がしっかりした経営をしているかどうかというのは、掃除、それからトイレ、そこにある植栽の植木の受け皿、このような箇所を見ると、大体その会社を評価することができます。

もう一つは、学校の先生方にかかなりの差があると思っています。教育センターが一生懸命現役の先生方の教育をされていますが、ICTの使い方をはじめとし、新任の先生とベテランの先生方の間の情熱、言葉遣いなど、かなりの差があることを感じます。個性はあっていいですが、基本はしっかりするべきだと思います。

そこで、現場を見て、学校教育課が一生懸命指導されているということ、よくわかりました。そして、教育委員会全体が、佐世保の子どもたちに良い教育をするための指導を、しっかりとされているということもわかりましたし、教育委員会事務局で勤務された先生が、今度はまた現場に戻られる、このシステムがすばらしいなと感じました。監督する側から、今度は、現場で監督を受ける。この繰り返しを質を高めていくのだと思います。

何より、私どもが学校に行って、改善点を指摘することだけではなくて、逆に、我々が勉強させてもらっているということを感じます。その中で、精いっぱい経営者の立場でいろんなアドバイスを引き続きやっていきたいなと思っています。とてもいい機会を与えていただき、この教育委員を受けてよかったなと思うところでございます。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それでは、西本教育長、お願いします。

【西本教育長】

せっかく市長もお見えですから、学校訪問の仕組み、一連の流れを説明します。まず、我々委員が集まって、職員室に行って、朝の一発目のご挨拶を私がさせていただきます。そのときに、先ほど深町委員がおっしゃったように、職員室の職員が勢ぞろいして、学校長がそれぞれ紹介をされます。紹介の仕方にも学校によって差があって、学校長自ら行う学校もあれば、教頭が行うところもある。名前を全て覚えている学校長もいれば、そうではない学校長もいる。そこで大体最初の印象が決まります。

それから校長室に戻りまして、まず、学校長から学校経営について説明を受けます。そして、授業をずっと見て回った後、校長室に再度戻ってきて、それぞれ

の委員から指導ということになります。

委員の皆様からの指導につきましては、非常に舌鋒鋭く、そして、目のつけどころがはっとするような、そういう見方もあるのかと私自身、とても勉強になる。そのときにはやはり、学校長、教頭、管理職の先生は非常に緊張が走る場面でございます。

私の順番に来たときには、もう既に他の委員の皆様が全ておっしゃっていた後なので、あまり申し上げることはないのですが、私自身、学校訪問を何のためにするのかというのは、合田委員もおっしゃったとおり、我々が教育委員会で決めたこと、そして、教育方針と努力目標を定めております。それが確実に実施されているかということを見極めるためであると思います。そして、予算をつけていただいた事業が適正に執行されているかということも見極めるためだと思います。

各学校によって、ばらつきがありますが、私自身はまず学力向上と、それから心の状況の問題というのはその中でも重要に捉えておりますので、その分の質問や、指導もいたします。心の問題については、質問をすることで意識づけができていますと思いますが、学力向上については、管理職の学校長と現場とのずれや、温度差があることが感じられました。隅々まで行き渡っている学校もあれば、行き渡っていない学校もあるというところを指導し、その緊張感が学校に植えつけられれば、学校訪問の意義が一つ達成できているのかなと思っております。

それから、いずれの学校も、家庭教育、家庭との関係について悩みが大きいという感じがしております。学校が幾ら頑張っても、家に帰って全く関心がないということになると、やはり非常に厳しいということもありますので、保護者会の出席状況などについてもお尋ねをします。

その中で、いずれの学校も、ある程度のことは実施されていると思います。学校訪問を数多く実施し続けていることは、委員の皆様には負担をおかけいたしますが、私は必要なことだと思っております。久田教育長職務代理者や内海委員もおっしゃったように、そのときだけでもやるということもやっぱり大事なことで、もし、それをやらなかったら、なかなか意識づけができないのかなと思っております。今後も、この学校訪問というのは時間が許す限り続けていきたいと思っております。委員の皆様それぞれの立場から、厳しく見ていただければ、私も勉強になりますし、今後の学校経営についてもより向上していくのではないかなと思っておりますので、よろしくご協力を賜ればと思っております。

それから、施設の老朽化の問題も課題です。相当に厳しい状況でもありますので、それも計画を立てて、一歩ずつ改善を進めていきたいと思っております。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それぞれに学校訪問につきまして、意義、そして感じたことをお話しいただきまして、ありがとうございました。

この学校訪問に関しましては、回数が非常に多いと改めて感じさせていたところでもございますけれども、教育委員に就任していただいた当初は、教育委員の皆様も自分の研修のためにというような思いで参加されていたのではないかと思います。これが2年、3年、4年と重なってまいりますと、それぞれの学校を見ておられますので、今度は、しっかりと自分の考え方や、さまざまなご経験を踏まえたご指摘もいただけるような形になっているのではないかと思います。

そういう意味で、学校訪問を、教育委員の皆様にも実際に対応していただくことで、学校長、そしてまたそれぞれの職員の皆さん方には緊張感が漂ってくるのではないかと考えております。その緊張感というのは、やはり私は非常に大事なことだと思っています。緊張があって、そこで初めて見直しもできるだろうし、教育委員会がお見えになるから、ここはこうしないとといけないということを反省する。事前にそういうことに気づくことができる。そしてまた、今度は委員会の中でご指摘いただいたことによって、さらに、ここはこうしたほうが良いのではないか、ほかの学校ではこうしていると、そういう気づきも出てくると思います。そのため、学校訪問というのは非常に大事なことだと思っています。

先ほどから、学校訪問の過去における経緯というのがありました。私が市長になるころはまだ制度化されていなかったとのことでしたがその後、教育委員の皆様も学校訪問に同行するようになった、とおっしゃっていました。

それまでは、どちらかと言うと、教育委員の皆様も、ご多忙な方が非常に多い状況でした。そして、現場にはほとんど行かないという流れがあったということでした。

それではいけない、現場を知るということが何事においても大事だということで、回数が重なり過ぎているのかもしれませんが、しかし、過ぎているということはないと思いますし、できる限り、教育委員の皆様が、時間を繰り合いながら参加いただいているということで、大変ありがたいことだと思っています。4人おそろいになることはなかなか大変だと思いますけど、一人でも二人でも、訪問していただくことが私は大事なことだと思っていますので、今後も続けていただければと思っています。

そういう中で、図書館の話もお聞きいたしました。司書の大切さを、私も委員の皆様方から教えていただいたところでもございます。

私は、佐世保市立の図書館、中央図書館というのももちろん大事だと思いますが、身近に本が読める、借りることができる学校の図書室というのは、子どもにとっては非常に大事なところだと思いますし、また、地域の市民の皆様にとりま

しては、地区公民館の図書室というのも大事なのではないかと考えています。市街地にある佐世保市立図書館まで行って本を借りるということが、なかなか難しいという方もいらっしゃると思います。分館とまではなかなかいきませんが、できれば、地区公民館の中で、蔵書を増やしながら充実をさせるということが望ましいですし、蔵書数は少ないかもしれないけど、中央の図書館にリクエストが届き地区公民館に配送することができるような時代に入ってまいりましたので、そういうことを含めてやることができれば良いのではないかと考えております。

ちょっと話が横道にそれましたが、非常に大事なことだと思いますし、また、特別支援やアレルギー等につきましても、他市からもお褒めをいただいたということをお聞きいたしまして、大変うれしく思っています。佐世保市がやっていることが他都市から模範にされるということ、これは大変うれしいことでございますし、それに甘んじることなく、また次のステップへ進めることができればと思っております。

いずれにいたしましても、学校訪問をして初めて気づくことも多いと思いますし、そしてまた、それを活用するということにつながってくるのではないかと考えております。教育委員会といたしましても、今後とも学校訪問は続けていただきたいと考えております。

私からのコメントは以上でございます。

あとは、この学校訪問につきまして、まだ話し足りないことがございましたら、ぜひ。

【久田教育長職務代理者】

教育委員は、学校訪問で、学校に対しお話をする際には、全体のうち8割は、学校のすばらしいところに目をつけて評価をしていますが、残りの2割の、改善を要する項目についても指摘を行っています。しかし、私ども教育委員、あるいは教育委員会事務局は、改善点を見つけて指摘をするためだけに学校訪問しているのではなくて、学校訪問をすることにより、学校に対して応援団として下支えをする、そういう思いを伝えたいと思っています。

だから、そういう誤解が生じないように、そこの部分だけ、はっきり申し上げておきたいと思いました。

【朝長市長】

深町委員、どうぞ。

【深町教育委員】

私が学校訪問させていただくことの楽しみの一つに、給食の試食があります。子どもが学校に通っているときは、年に一度の給食試食会でしか食べることがありませんでした。小学校を卒業したらもう給食とは縁が切れてしまって、給食を食べるということはなかったのですが、教育委員をさせていただいて、十何年

ぶりに給食を食べることができたというのはとてもうれしかったです。また、給食では、例えば、浦上そばろといった、自分の家ではつくることがないメニューを食べる、知るということも楽しみでした。

それから、何より学校給食のありがたみを感じました。小学校では1食あたり230円、中学校では260円で、給食を口にすることができることをすばらしいと思います。メニュー、栄養面を考えられた食事に関心しました。

【朝長市長】

ほかございませんか。内海委員。

【内海教育委員】

二つ。今、給食のことが出ましたけれども、私も給食を食べてみて、おいしいと思いました。どれを食べても、これは合わないなというのが1回もなかったというのが、佐世保市の給食の質の良さを実感しました。

もう一つは、会社経営の観点から申しますと、日頃から、優秀な人材がほしいと思っているのですが、学校訪問を通じて、我が社に入社してほしいと思わせる学校長がいました。そういう人材を抱えている佐世保市教育委員会はすばらしいと思います。しかし、そういう学校長には、またほかのすばらしい仕事が残っていると申しますし、退職された後も、また地域に戻って活躍してほしいなど、そういう目線でも見させていただきました。

【朝長市長】

合田委員、どうぞ。

【合田教育委員】

私の子どもは、今年度で中学校を卒業するため、親としての立場から、いよいよ佐世保市立小・中学校とも離れてしまいます。保護者だけではわからなかったことが、教育委員になっていろんな学びの機会をいただくことで、親の力、親の教育力、そして地域の力をもっともっと上げていくために、一市民としても何か動かないといけないなという気持ちになっております。

親の教育力がいつも課題だと思っており、どうしたらいいのかともがきつつも、まずは、我が子の周りの子どもたちに声をかけながら、給食の話にしても、子ども食堂が今これだけ広がってきて、それでもやっぱり食べられていない子どもがいる、貧困家庭で育っている子どもがいる。そういう弱い立場にいる子どもたちの味方であり続けられるように、そういう視点でまた学校訪問も続けていきたいと思います。あとは、学校の先生の業務の多さですね。学校教育に求められるものが多過ぎて、さきほどのふるさと教育、心の教育もそうです。一方、学力について、関心を持って見ていきたいと思います。学校とは別に、塾に通う生徒が、近年多くなっています。塾で教えているのが、教員免許も持たない学生の方の場合もあるのに、数ヶ月でテストの点数が上がったとの声も聞きます。な

ぜなのでしょう。それが教育委員の任期の間に答えが出るのかなと思いつつ、先生方の努力は重々にわかっておりますし、また、教育委員会が予算をつけて指導員を配置したことも、いつかは実るはず。そう思いつつ、そういう視点でも、また来年も取り組ませていただきたいと思います。

【朝長市長】

ありがとうございました。

それでは、教育長、まとめがございましたら、お願いします。

【西本教育長】

学校の先生方は大変な努力をなさっています。学校長も、私が小学校の時代と全く違って、子どもの目線で校門に立ち、朝から、何とかさんと名前まで覚えて、しっかり指導なさっている姿は、私がイメージを抱いていた、40年以上も前の姿とは全然違う。そしてまた、学校が地域によく溶け込んでいます。開かれた学校というよりも、地域とともにある学校であり、地域の方を招き入れて、学校支援会議も含めて、普段からよくおつき合いなさっていただけて、信頼を勝ち得ているなというのが、ひしひしと感じます。

その反面、仕事が増えているのも確かだと思っております。この辺りのバランスを保ちながら、今後の学校の経営のあり方については、教育委員会の中でもしっかりと、改善すべきところはどこなのか、我々が支援してあげなければならないのはどういったことなのかをしっかりと研究をさせていただきたいと思っております。

佐世保の学校は、さきほど、久田教育長職務代理者がおっしゃったように、8割以上が満足できるのであって、残りの改善すべき部分を改善しなければならない。我々がしっかり見守らないといけないという、そういった気持ちになっております。

【朝長市長】

ありがとうございました。

今日、二つのテーマを用意したわけですが、そのほかにテーマ外で、これを緊急に言っておきたいということがございましたら、おっしゃっていただければと思います。ございませんでしょうか。

【全委員】

ありません。

【朝長市長】

ないようでしたら、これで終了したいと思います。

ここで、久田教育長職務代理者が、12月22日をもって任期満了となられます。2期8年、ほんとうにお疲れさまでございました。久田教育長職務代理者から一言ご挨拶いただければと思います。よろしくお願いします。

【久田教育長職務代理者】

機会をいただきましたので、失礼をいたします。

今、お話がありましたように、2期8年を無事終了することになりました。現職のとき、学校教育課に10年5月、社会教育委員として3年ほど、それから教育委員として8年ですから、20年以上、関わらせていただいたことは、考えてみると大変幸せなことだったと思います。

特に、教育委員としての8年間の中で、様々なことがございましたけれども、一つだけ挙げろと言えば、迷いますけれども、教育委員会制度が変わったことだと思います。

実は、朝長市長が市議会議員だったころ、私自身は学校教育課に勤務しておりまして、その当時、ある質問を頂戴しました。担当として、私が朝長市長のところに取材に行きました。学校の研究指定を行っていますが、学校には幾ら予算が措置されているのかという趣旨のお尋ねでございました。関心を持っていただいたおかげで、翌年度以降、研究指定校に関する予算が拡充されました。

朝長市長はその当時から、教育に関して非常にご関心をお持ちでしたが、今、この総合教育会議でも、私ども、朝長市長の考えをじかに伺いすることができますし、逆に、私どものさまざまな意見を聞いていただいています。だから、この総合教育会議に出ることは大変なプレッシャーでもありますが、思いのたけを述べて、このような白熱化した議論と言いますか、論議がされないと、市長部局と教育委員会が一体となった取り組みはできないのであろう。そういう意味からすると、新しい教育委員会制度は、佐世保市においては功を奏でて、成功していると思っています。

しかも、今日は、文教厚生委員である議員の方も関心を持ってお見えになっていますし、議会でも、教育関係は毎定例会とも、関心を持って何本もお尋ねをいただいている。だから、市長部局、教育委員会、議会が一体となって佐世保の教育を推し進めていただいているということを感じて8年間でした。

最後になりますけれども、朝長市長、教育委員の皆様方、それから教育委員会事務局の方々、それから佐世保市議会議員の皆様、すばらしいメンバーに恵まれて、やりたいことがやれてきたのかなど、ほんとうに幸せだったな、ありがたかったなと感謝の念でいっぱいでございます。そういうことで、ほんとうに8年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

【朝長市長】

久田委員、ほんとうにありがとうございました。ほんとうはもつともつとやっていただきたいという気持ちはありますが、2期8年ということで教育委員の皆さんにはお願いをしているところでございますので、やむを得ないなという感じでございます。

しかしながら、この8年間の間に、教育現場を知る委員として、そしてまた、これまでの経験を生かしながら、さまざまなご意見を賜りまして、まことにありがとうございます。厚く御礼を申し上げる次第でございます。

最近だったと思いますが、テレビでノーベル賞の話がございました。今は日本でノーベル賞を受賞される方がずっとたくさん出てきている、しかし、これから数年後にはもう日本ではノーベル賞を期待できないという話がありました。

というのは、文部教育予算、その中で、大学での研究の予算が削られている。今、日本の全体の考え方の中で、文部行政における予算が、数字を見ても、ほんとうに削られています。なかなか充実できないということがございます。それが、地方にもし寄せが来ているのかなという感じがするわけでございますけれども、そういう中で、限られた予算の中ではありますが、私ども、学校教育はしっかりやっていかなきゃいけないと考えております。

この将来の日本を背負っていくのは子どもたちであるし、そしてまた人であります。やはり、人に対する投資というものをしっかりやらなきゃいけないと感じておりますので、今後とも、その予算に関しましてはできる限り配慮したいと思っておりますが、足りないところはやはり工夫をするということも必要だと思います。その工夫のサジェスションをしていただく、そしてまたアイデアをいただくというのは、教育委員の皆様方と思います。ぜひ、そういう意味で、またご指導いただくことができればと思っております。

久田教育長職務代理者におかれましては、この委員会を離れられますが、これからもOBとして、ぜひまたご指導いただきますように、よろしく願い申し上げます。長い間ありがとうございました。感謝申し上げます。ご挨拶にかえさせていただきます。どうもありがとうございました。

それでは、事務局のほうにお返しいたします。

【松尾総務課長】

市長、ありがとうございました。

これで平成30年度第2回総合教育会議を終了させていただきたいと思いません。

----- 了 -----